

「遠野住田ー遠野間」着工へ 東北横断道の全線開通目指す

復興支援道路に位置付けられる東北横断自動車道釜石秋田線の遠野住田(上郷町)ー遠野間(綾織町)(11キロ)の起工式は6月16日、上郷町の整備予定地で行われました。出席した事業関係者や地域住民ら40人は、早期整備に期待を寄せました。

式では、事業概要が説明されたほか、関係者が鍬入れを行い、工事の安全を祈願。本

田敏秋市長は「同線の整備は被災地に元氣と勇氣、未来への希望を与える。被災地の復興のため、一日も早い完成を願う」とあいさつしました。

総事業費は310億円で、整備が完了している釜石西ー遠野住田間と平成27年に開通予定の遠野ー宮守間を接続し、釜石ー花巻間の全線を結ぶ最後の区間となります。今後8年以内の完成を目指し施工さ



道路の早期完成を願い、鍬入れする関係者

れ、▽災害救援▽震災復興のための資材・廃棄物搬送▽医療連携▽産業振興ーなどの効果が見込まれています。

花であふれる美しいまちへ 図書館などへプランター寄贈

遠野ロータリークラブ(小向秀五郎会長)は6月5日、プランター20個を市に寄贈しました。贈呈式は市立図書館前で行われ、会員16人は花であふれるまちづくりに願いを込めて寄贈しました。

同クラブのプランターの寄贈は、環境美化活動の一環で毎年行っているもので、今年度は市民や観光客が多く訪れる図書館前と市民センター前に設置。プランターにはベコニア、マリーゴールド、アゲラタムの3種類の花が植えられています。

プランターを受け取った藤澤俊明教育長は「いただいた花と職員の笑顔でおもてなししたい」と感謝し、小向会長は「遠野物語」の根付く郷土を花で彩りたかった。市民や観光客に親しんでほしい」と願いを込めました。



寄贈されたプランターの前で記念撮影する同ロータリークラブの会員ら

遠野の伝承を伝え続け29年 伝承園入園者200万人達成

伝承園(佐藤正雄支配人)は6月8日、入園者200万人を達成し、記念セレモニーを行いました。200万人目の入園者は岡山県岡山市から訪れた長岡功さん。長岡さんは「知人から遠野の魅力を知って以来、ずっと訪れてみたいと思っていました。温かい歓迎で、すっかり遠野ファンになりました」と満足した様子でした。

セレモニーでは、長岡さんと200万人の前後の人へ木彫りのカップなどの記念品が贈呈され、餅まきも行われました。このほかマドロスや股旅などの演芸を楽しむ土淵地域の住民で組織する「昔懐かしの演芸会」の結成20周年を祝う会も併せて行われ、共に節目を祝いました。

同園は1984年(昭和59年)にオープンし、1998



200万人達成を祝う関係者ら。左端が長岡さん

年(平成10年)には、入園者100万人を達成。遠野に伝わる伝承行事や昔話を実演するなどして訪れた人に遠野の文化を伝えていきます。

各種訓練で防災意識高める 13年ぶりに「まとい振り」復活

遠野市消防演習は5月26日、早瀬川緑地公園などで行われました。参加した団員、婦人消防協力隊員ら630人は、各種訓練を通じて消防技術を再確認しました。

団員と車両62台は穀町を分行進し、緑地公園では消火や放水訓練、ラッパ隊によるドリル演奏などを実施。また10分団(宮守町達曾部)は「まとい振り」を13年ぶりに披露



13年ぶりにまとい振りを披露する10分団員

し、団員は火消し魂を示しました。

井手純消防団長は「市民の安心安全を守るため、日ごろから防災活動に励んでほしい」と、統監の本田市長は「官民一体の活動で震災を乗り越えることができました。人や地域とのつながりを強め、災害のないまちづくりに協力いただきたい」とそれぞれ訓示し、団員の士気を高めました。

改革は第二ステージに突入 進化するまちづくりへ再加速

第三セクターなどの関係機関・団体の検証を行ってきた「遠野市進化まちづくり検証委員会」の第2次委員会(山田晴義委員長、委員7人)は5月30日に設置されました。出席した検証委員と市関係者は、まちのさらなる発展に議論を交わしました。

三セクをはじめとする関係機関団体の改革を第1ステージとして区切り、「第2ステージ」と位置付けた検証作業。今後さらに進むと予想される少子高齢化、人口減少などの地域の実態に即したまちづくりへ転換するため、自治会や行政区など、身近な組織のあり方、市民協働の位置付けなどを見直していこうとするものです。このほか各コミュニティにおける人材の確保や育成方法の検証、庁舎機能の検証も行います。式では林省吾市町村職員中央研修所学長の講演、遠野町第13区自治会、上宮守文化振興会の地域づくりの事例発表が行われ、参加者はまちづくりの課題などについて情報を共有しました。山田委員長は「第2ステージは市民が主体となった改革。市民と行政が課題を共有し合い、市の望ましい姿を一緒に探りたい」と決意を新たにしました。



「第2ステージ」に向け、あいさつする7人の検証委員(中央、山田委員長)

第二次検証委員会委員

山田晴義(岩手県立大学名誉教授、稲葉比呂子(前県秘書広報室長)、大泉太由子(東北活性化研究センター調査研究部専任部長)、小野寺純治(岩手大学地域連携推進センター副センター長)、北原浩平(武蔵野市民部市民活動推進課長)、工藤洋子(前株ジョイス監査役会事務局)、吉野英岐(岩手県立大学総合政策学部教授)

産直ともちゃんが開店10周年



4月26日、小友町の産直ともちゃん(梶原光正組合長、55人)が開店10周年を迎えました。地域活性化を目的に平成15年に設置され、産直部門のほか「みつ葉のクローバー」による食堂や手作りパンなどの販売で、小友の魅力を発信しています。梶原組合長は「組合員で協力し合い、大きな節目を迎えることができました。今後はお土産になるような加工品の開発にも挑戦していきたいです」とさらなる発展を誓いました。なお、7月14日にはお客様感謝祭を開催する予定です。

千葉家住宅を公有化



公有化された千葉家住宅

6月7~14日に開催された市議会6月定例会で、国重要文化財「千葉家住宅」が公有化されることが可決されました。7月6日から開館業務を(社)遠野ふるさと公社が行い、これまで通り見学することができます。今後は各種修理工事に向けた準備を進めていきます。

- 開館時間 8時半~17時
- 利用料 大人350円、高校生250円、小中学生150円 ※20人以上は団体割引有り。遠野文化友の会会員と市内高校生以下は無料
- 休館日 12月29日~1月3日
- 問い合わせ 重要文化財千葉家住宅(☎62-9529)